

小物廬日誌

昭和十年一月以降

特別

14

1919

619

35

40

45

50



二日

晴、天気晴らうも朗らうも、二三賀美村の  
旅館一二軒あり、先を伴う船はあまの走  
り急を急ぐ心をも散策す、多くの酒ある店  
皆鎖あり、ここをく中央傳車庫舎の  
二列のスタウトを飲み、ゆとり、適度の  
の現代化と読む。

三日

晴、今又放送すべし、左義長の流の多相を心

榎原製

ふ、合田中平原の流の中、井部、此の来  
書、十一字先を伴う、白木倉、二三の帯  
と衣、如の裁縫を托し、新築の源兵衛、  
節とゆへり、和田萬生、夫妻の、女子、  
二法名を書き、市原松流、その流、  
を其の、五時、守放送、馬、  
左義長の夜を放送し、  
一、余の放送、  
一、大  
十二時、  
三、回



時、今宵二初の辰暗きとき、余は寝ぬとて  
す、馬橋鏡流とて、余は午時野橋を下物  
二一物を似け、ゆかると、竹の、五十島旗の志  
母、物を贈る、田原高平の訃利ふ、南一、桑の糸也

八日

時、朝尋旅所を筆、お林崎、本流、森崎の文  
人、并、渡士村、尾大ら、し、自家の句集が、  
八日、と、定り、せ、ある、龍吟、祀の井上、精一、外流  
日本、政、文、協、会、の、函、牒、に、接、す、亦、函、全

藤原表

と、贈、る、来、る、註、本、如、石、川、多、大、り、し、も、余、の、放  
送、に、就、し、来、書、也、也、この、今、夕、鐸、次、り、去、田、原、今、夕、  
こ、甲、書、を、寄、り、す、午、後、草、村、時、雄、井、上、精、二、と  
高、坂、酒、池、錦、丸、と、今、夕、し、を、時、何、新、夕、の、松、江、  
時代、を、移、り、不、也、て、お、夕、の、流、流、り、史、を、批、評  
し、研、究、し、て、悔、入、り、山、田、酒、主、も、海、留、腸  
栗、林、正、し、し、野、の、子、入、一、指、を、今、夕、も、す、り、

九日

時、夕、の、今、夕、集、来、十六、回、二、冊、配、本、余、の、放、送、に、對



十一日

昨、朝未旋杯を兼り、田中智彦とて来り、楠  
瀬、中津、家一、来り、其業、日本社とて来  
り、予の客稿と書り、未だ、其稿、鋭二、水  
也を、果す、今、井、予、之、文、也、を、見、り、石、塚  
三、の、事、可、知、其、業、也、を、略、す、と、云、る、午、後、教、業  
文、り、也、を、治、り、二、三、の、友、也、を、略、す、と、云、る、

十二日

昨、今朝、其業、之、の本、の、囀、を、見、り、其、業、の、意

榎原製

集、取、味、一、編、を、兼、り、心、を、寄、り、高、津、口、の、  
予、キ、友、故、取、味、の、一、編、十、二、三、枚、を、引、つ、き、  
兼、心、一、定、法、を、引、つ、き、其、物、を、齋、し、日、の、  
年、笑、み、家、人、也、と、云、る、十八、日、復、生、人、と、云、る、田、中、  
今、今、の、事、由、利、三、日、昂、病、み、午、後、午、月、齋、  
の、未、診、

十三日

昨、朝、未、旋、杯、の、起、業、の、事、始、り、予、キ、後、り、也、と、云、る、山、田  
清、也、可、知、中、津、為、一、路、と、云、る、和、田、辰、作、也、

の履歴者利<sup>イ</sup>、トリス<sup>イ</sup>の一日一善を讀む  
武夫より後幸<sup>一</sup>利来、放逐<sup>一</sup>堀<sup>一</sup>合<sup>一</sup>の蘭<sup>一</sup>、<sup>一</sup>指<sup>一</sup>也  
筆<sup>一</sup>夜<sup>一</sup>入<sup>一</sup>、

十四日

晴朝来後出、菟山<sup>一</sup>筆<sup>一</sup>の考<sup>一</sup>画<sup>一</sup>を撰<sup>一</sup>りて  
午後散策丸<sup>一</sup>善<sup>一</sup>の物<sup>一</sup>と<sup>一</sup>結<sup>一</sup>ひ<sup>一</sup>高<sup>一</sup>原<sup>一</sup>の<sup>一</sup>名<sup>一</sup>  
刀<sup>一</sup>后<sup>一</sup>法<sup>一</sup>を<sup>一</sup>見<sup>一</sup>と<sup>一</sup>切<sup>一</sup>く<sup>一</sup>、<sup>一</sup>皆<sup>一</sup>書<sup>一</sup>き<sup>一</sup>畢<sup>一</sup>り<sup>一</sup>の<sup>一</sup>名<sup>一</sup>  
五六枚<sup>一</sup>あり<sup>一</sup>、<sup>一</sup>今<sup>一</sup>作<sup>一</sup>ハ<sup>一</sup>一<sup>一</sup>、<sup>一</sup>其<sup>一</sup>出<sup>一</sup>、<sup>一</sup>夜<sup>一</sup>且<sup>一</sup>雨<sup>一</sup>雪<sup>一</sup>  
一日一善を讀み且つ抄す

稗原製

十五日

雨朝来後出、筆<sup>一</sup>一日一善を讀み且つ抄す、午後  
散策丸<sup>一</sup>心<sup>一</sup>に<sup>一</sup>二<sup>一</sup>三<sup>一</sup>の<sup>一</sup>物<sup>一</sup>を<sup>一</sup>結<sup>一</sup>り<sup>一</sup>、<sup>一</sup>一<sup>一</sup>、<sup>一</sup>一<sup>一</sup>  
井口<sup>一</sup>基<sup>一</sup>成<sup>一</sup>来<sup>一</sup>、<sup>一</sup>酒<sup>一</sup>合<sup>一</sup>と<sup>一</sup>興<sup>一</sup>す

十六日

晴朝来後出、筆<sup>一</sup>一日一善を讀み且つ抄す、中尾<sup>一</sup>法<sup>一</sup>を  
印<sup>一</sup>と<sup>一</sup>其<sup>一</sup>の<sup>一</sup>書<sup>一</sup>を<sup>一</sup>見<sup>一</sup>、<sup>一</sup>一<sup>一</sup>ヤ<sup>一</sup>バ<sup>一</sup>、<sup>一</sup>一<sup>一</sup>、<sup>一</sup>一<sup>一</sup>  
ク<sup>一</sup>ス<sup>一</sup>と<sup>一</sup>ウ<sup>一</sup>セ<sup>一</sup>、<sup>一</sup>一<sup>一</sup>、<sup>一</sup>一<sup>一</sup>、<sup>一</sup>一<sup>一</sup>、<sup>一</sup>一<sup>一</sup>  
の<sup>一</sup>本<sup>一</sup>を<sup>一</sup>読<sup>一</sup>、<sup>一</sup>放<sup>一</sup>逐<sup>一</sup>堀<sup>一</sup>合<sup>一</sup>と<sup>一</sup>一<sup>一</sup>、<sup>一</sup>一<sup>一</sup>、<sup>一</sup>一<sup>一</sup>、<sup>一</sup>一<sup>一</sup>



寄るもの、教の来紙より彼の田原尾に酒飲し  
里門町の文行をよめりて方お代を三十四  
掛入、早大の書生書道合々を押巻を求めし  
〇  
時書道合々を押巻、中尾清太郎に海書をかき、  
午後教来紙に二二の指を接し切入り、紙紙  
と兼々、同定回甲の石川千代松甚清に  
死の報あり

十七日

棟原製

十八日

朝来紙に書道合々(廿二)の道  
新の栗林と書ハイス、フコイスの口書  
も漢文、午後吉山富徳に紙を、津本共一の書  
あ式、路々、四時あ田美次平宅の復物  
人合、路々、あ合を共うして、時十時  
をこく

十九日

時七時の地震あり、朝来紙に書道合々

清本二冊貸付、政上より注釈を  
施す、版部研石も中川清三著「お灸の帯燈」を  
寄る、自らの人布打浴五本の心、押巻をせとぬ  
す、この井倉等執事等の新法創刊御方志紙  
を、今もその午後お生し、散策、井倉の寺を  
飲む、書史より今もいふ、海老古活字本日紙川  
瀬一馬(編)を贈り、来り、寝、日、谷の寺、夜を漬  
す。

二十日

穂原製

時、相見がぬを早す、五十時、旅、心も、鶴と、山、集  
を、贈り、来り、寺、お、辰、卯、社、も、前、金、利、来、午、時  
散策、下、谷、清、山、路、以、月、本、に、飲、し、物、も、以  
お、能、保、を、兼、す、丹、黒、の、夜、月、の、物、を、贈  
る、父、康、平、の、海、外、の、う、と、を、入、り、心、人、の、考、の、二、三  
紙、押、巻、投、郵、三、馬、の、活、世、風、習、を、漬、む。

二十一日

時、朝、イ、子、旅、心、を、早、す、去、代、四、巻、三、巻、に、来、り  
正午、飲、酒、宴、を、兼、し、碎、紙、睡、代、中、山、形、の、紙



時、朝来遊船を乗る、高須芳次中より大花  
者出致、此流前期の碩子志山儀一氏の遺著につ  
いて素前冊子を寄せしめる、丹那トニ子への話を後  
時に移す、坂田増平中より素前、午後教員  
自述の画稿一函を得て、懐く、垣原家より  
号奥返して、物を寄せしめる。

二十五日

時、小柴卯七中より物酒を贈る、坂口献衣  
既に来、素前日十七日、春成今の致向を報

榎原製

一、素前、丹那トニ子への話を後、坂田増平  
より素前、又布村弥五より、海山刊、紅葉者  
副抄を讀み、時を移す、松島を寄す、流を徳大  
郎より素前、五時、紅葉館、越天、陸、今、陸、  
出、序、素前、田、田、中、卯、月、木、林、増、田、と、念、也  
予の投稿を、ね、の、り、を、寄、る、日、本、に、採、利

二十六日

時、朝来遊船を乗る、高須芳次中より大花  
者出致、此流前期の碩子志山儀一氏の遺著につ  
いて素前冊子を寄せしめる、丹那トニ子への話を後  
時に移す、坂田増平中より素前、午後教員  
自述の画稿一函を得て、懐く、垣原家より  
号奥返して、物を寄せしめる。

若の幅表北成、午後海路起り、船中  
兼、作庭際日記

二十七日

昨、大坂市去、関一、計利の、言葉、本記と、原  
稿料、十四、引、来、北原、程、忠、為、池、和、三、ら、皇、也、  
今日、の、き、来、功、四、五、の、少、人、に、紙、外、右、刺、を、交、付  
旅、中、を、著、す、烟、山、香、大、り、し、し、日、本、の、南、也、以、来  
の、パン、フレ、ット、を、考、へ、て、身、を、り、し、し、諸、人、を、克、を、付、心  
教、養、有、給、也、物、を、指、心、公、衆、と、酒、飲、す、

穂原製

此、書、後、海、道、通、徳、を、り、し、し、馬、車、平、快、通、り、練  
事、早、回、去、致、の、碑、文、を、り、し、し、流、(、壁、に、十、の、百  
種、族、の、時、を、考、へ、し、し、別、天、帝、降、格、次、り、其、物  
七、時、を、り、し、し、井、口、甚、成、舟、才、其、物、を、贈、り、

二十八日

昨、今、井、絳、子、ら、末、女、如、女、某、山、陽、の、書、板  
打、夫、鏝、を、と、需、也、海、道、通、徳、大、り、片、山、利  
久、の、間、才、字、居、也、海、上、の、時、隔、り、未、也、旅、中  
を、著、す、り、日、本、香、大、り、し、し、馬、車、平、快、通、り、練

般柔洋川に赴く儀ハ八幡の祭礼あり能道あり  
祀せし戻り作事ハ一和と仰けしゆふ未だ人  
事り山陽の鏡之をともとふ振んてまじす

二十九日

時朝より夜迄をまじす、静中有三といふ人山陽  
早稲の鏡之をともとふ謝してす、七井城を  
の邊の井田のち保山ぬと持来、強うのりて春  
城今ハつき坂口献吉といふ、午後先をばさ  
日本別場の米田のダンス、パンテーン、レヨウ

棟原製

の舞踊を覚え、四時果て、廿五兵衛ニ酒飲して  
ゆくと夜未だあり

三十日

時大坂・大冬吸心出果の吹渡しの言士を招く  
山の侍也、日あ積む本祀本、遊樂を兼す、村  
山ぬしゆ、今井、と物うのま、書、天、物、を  
托す、五十ゆ、と餅を送り来、又午後般柔向  
島公園を歩くとゆへ、並木是大らの針刺  
る為なり

三十一日

兩北原社忠利翁の物を贈る、関大より片山  
利久より身書、及び弘翁の例の注射を受  
く、猿海を著す、関魚川の以て二三紙押書  
五十崎猿海の物を贈る、今夜大蛇の大谷明成  
の撰之より白田中孝と飲む、昔画野り品に  
つき、今井ら父子に前す

〇 二月

一日

穂原製

明平丸社より謝金十三圓の到来、時子山常  
三平の海中のるる、旧朝を頼し来る、早大の宗  
生原田典吉、山陽の持梅を贈る、其の  
清内、道終、鋪壯、心抄、二十六日、六十九、午後所  
納付、清内、島田、記念、郵便、局、本日、電信、取扱  
開始と、電報、来る、午後、五、木、元、なる、の、去、別、式  
二、崎、み、香、典、十、田、昭、文、丸、じ、の、に、物、を、贈、る、物、の  
因、延、の、上、倫、石、翁、十、紙、帖、に、贈、り、つ、と、べ、く、教、育  
理、の、時、を、著、す





ゆき、今夜即分豆を撒き備と追ふ、

五日

明、日本石油会社株券を印更し、東急株額面二千  
圓を贈ふ。山崎千代二、向來所得税二百三十三圓  
六匁納付、小入の成二、子法、遊を飯塚、三、次、中  
来、明、午、終、を、與、り、す、井上、精、二、と、未、向、海、等、  
徳、大、中、と、一、迄、向、利、と、午、後、散、米、銀、五、と、物、を、贈、ふ、  
海、之、徳、大、中、と、多、く、五、め、五、と、七、贈、り、来、り、飯、塚、等、  
六、中、片、山、利、久、と、投、筒、

藤原製

六日

明、朝、来、旅、館、を、兼、下、し、時、を、移、り、午、後、五、時、以、来、  
館、に、赴、き、連、合、の、協、古、余、高、米、と、七、喜、田、の、月、増、  
田、森、子、合、

七日

明、寒、氣、大、い、り、又、八、公、森、千、代、と、是、来、出、口、海、  
印、刷、令、社、廿、三、日、臨、時、株、主、法、令、の、通、牒、對、三、十一、  
時、先、を、成、り、を、白、布、局、に、刊、り、用、白、布、し、高、時、  
局、公、堂、に、館、し、二、時、半、永、樂、作、部、に、代、

けり文政場へい合し時止し昨日捕刺のソウイ  
エトピア大使太田為吉とて日圓の近状を就  
き約二時間の演説を聴く

八日

昨、凡、朝来者局より見字あり山人と云ふ  
福を起し、龍野殿に寄らせんとし、廿四頁  
し未だ半ハハるゝと云ふ、十二時をこぼり、ホメ  
減也、演説は徳大より、高き、午後散策又の在、園  
を廻り、お出守武田上巳余の押巻を、おし

海物を持来、文政場へも余の町の二つを  
更遊し、福本到来

九日

昨、昨日の福を續け、正午まで十数頁著  
す、お為千代武田上巳、お接、お電話料  
二十四納付、午後青山宿坊に、おけさ、お川  
千代松の貴お式に、おあ、お長崎の永山時英  
の補利、お領家彦次、おお、おお、おお、おお、  
お階の園方市と見え、おお、おお、おお、おお、

口傳印別令社々々未書、永山時英の巻  
子ニ帛状を賜す

十日

時、おまふ父と傳の原好又者き次き漸也  
く成云、丸田潤二印了、余の印影を致  
ふ直も、端して花也印教、歎の印影も  
照ふ、一二土身を照く、西村之則未り  
日本改味「旅徳」家好を七とむ、と兒の  
心境一層ををき、又廿一日向木庵に日

藤原製

未改味の誹談をかしむ、深す、未林陽の村  
今の何巻うつき、未改、ゆ白と約し、果天  
方此合併、うつき未英、往々未、傑十一、此  
文を短し、新右の三編、酒飲して、切入る  
而外、

十日

建四祭

時、森脇田村来り、文成城、鏡の長、子新、り  
借入、ま三、高田の、侯、公、別、巻、の、七、七、雨、城  
し、七、時、を、移、す、小、井、原、上、三、外、日、関、大、ら、り、未

書午後校書祭況とる。紙は猪皮。日本橋  
筋上り之を常の如し。海を遠くより未だ  
昔尚く見えぬ。紅葉山人の石を校正す。

十二日

朝来雨雪霏。紅葉山人を校正し。卷  
術殿とす。又、龜山書三巻。画も持来り。示す。破  
り。紙も。未だ書お存。即ち。く。い。ん。千。千。千。  
及。故。く。い。ん。の。一。つ。る。を。寄。り。給。ふ。亦。な。術。殿。と。名。前。  
り。え。る。紅葉山人の長口命と云ふ。熱河の味

棟原製

内道達二箇あり。又今津八三箇あり。

十三日

朝来廿一日。白米。石。三。拾。九。海。濱。文。三。日。本。紙  
味の苦。好。む。心。の。極。口。献。克。年。花。野。七。坂。上。弘。和  
東。山。例。の。行。献。を。施。す。下。山。納。ま。し。出。  
英。文。行。程。と。紙。と。改。也。と。云。ふ。す。中央。公。論  
社。と。河。原。合。集。中。才。十。七。回。の。配。本。と。受。く。  
て。り。へ。又。も。お。比。懸。也。の。二。種。也。午後。七。分。お。と。ち  
く。散。果。丸。四。ん。を。好。以。得。来。入。原。行。を。著。す。

未だ完結してゐる

十四日

晴、園丁二人、庭州に施肥、  
為来りの肥料を筆す、  
漢人七数、果亦此處、  
今市に西倉と七均、  
内と代筆、  
今津、  
二と相書、  
別す、

十五日

晴、書物倉の紙并、  
淡刺、  
持物、  
紙、  
来出、  
又他、  
文、  
社、  
と、  
も、  
と、  
宇、  
尾、  
中、  
隆、  
来、  
流、  
一、  
所、  
と、  
押、  
是、  
別、  
す、

稗原製

の款、  
面、  
二、  
枚、  
を、  
其、  
の、  
神、  
本、  
流、  
と、  
持、  
を、  
別、  
心、  
別、  
す、  
の、  
三、  
福、  
の、  
酒、  
酌、  
と、  
七、  
均、  
と、  
一、  
の、  
持、  
安、  
向、  
美、  
次、  
と、  
と、  
別、  
す、  
書、  
積、  
書、  
日、  
今、  
と、  
別、  
す、

十六日

晴、  
朝、  
来、  
朝、  
紙、  
を、  
筆、  
す、  
持、  
来、  
原、  
國、  
後、  
回、  
友、  
故、  
ま、  
紙、  
預、  
金、  
二、  
百、  
五、  
十、  
圓、  
引、  
出、  
す、  
松、  
本、  
の、  
友、  
人、  
牧、  
野、  
氏、  
を、  
田、  
中、  
吉、  
山、  
伯、  
に、  
紙、  
付、  
す、  
書、  
簡、  
を、  
移、  
来、  
と、  
郵、  
送、  
魚、  
川、  
迄、  
と、  
朝、  
鮮、  
と、  
移、  
人、  
と、  
別、  
す、  
二、  
幅、  
揮、  
毫、  
午、  
後、  
三、  
紙、  
吳、  
持、  
来、  
と、  
別、  
す、

列り五代目菊五郎の妻物居を元ね生に四り  
向宅、又人の為め十紙揮立元、回方被協人とも  
未書、

十七日

晴今朝の勢より握筆を為池長を午の計を傳ふ七  
時半に海に赴く為の家と見ゆ、五土野を春  
候合より落合八時十分相替りて乗車、此行  
丹那ト子儿を道邊三時、列り執海に成り春  
候城を聞し都合、まゝ余の七十六回、返り成

穂原製

十時、丹那ト子儿を道邊三時、列り執海に成り春  
候城を聞し都合、まゝ余の七十六回、返り成  
の興味を持ち道邊(也)を起し、つうしうを果す  
を得、又道邊中、風候に勝へきまのあつた  
丹那ト子儿、山を更し、由那三田、此所を  
三島神社と稱し、境内の茶店に、行厨を聞  
き、飲合す、酒次予ハ一行の為め丹那ト子儿  
難工事の大概を弁せ、日時はの汽車をも  
熱海に成り、聚樂、技も此器、彼の器、絶つる  
るを予の年来の志也、此所、持向、まゝ、名を  
成す、三時、安合といひ、く、岸上より一物の演説

を試む。席上春城令及人ときり成於柳北の碑を  
當り柳北の志念きりし此殿の庭園に建つべしと提  
議する。そのありき予も賛意を表す。その時ありて  
んとし病臥とせしき止む。此令の去り席者榊  
弘等も訪ひり村山亀齡村山秋浦潤大分坊  
口献玄大江乙江戸小森望三石塚とらり伊表  
奥田中村辰井重次并余の十三名もてある  
後皆帰京余村山亀齡石塚とらりと留まりた  
す

穂原製

十八日

時今相親海より相合後石塚村山と於後  
以時を移り十一時自取車をも働めて梅園を  
ふ暇味の梅花満開、更々来りて宮を  
し終り重箱より利り飲去、脾胃余志き  
り談し真とれす。三時此令にゆり石  
塚とれ。五時此令の途に上り六時四十分  
京に立上り上りて永次領城彦次り  
し物を移り来りて本町に上りて  
宗二瓶貯りて丸田間二印とて来りて

十九日

昨日朝未始取紙を巻き、水戸原田守尾望  
滋日本致味社号と未書、廣井重次等  
訪に外間大らう、其のへき錢お金二十圓并  
ニ押書二幅、毛紙三枚を托す、午後武田  
孝介の爲の押書一時を巻き、飯塚彦  
の爲、山正之、初歌の幅一匣に寄す、高田并  
飯塚に問す、午後寺に供入の教集、紙巻  
ニ物を贈るに似、双雅居と其の施徳、  
余の徳巻、七、需り来。

穂原製

二十日

昨日今朝折曉地震あり、飯塚彦次郎身次  
既と和日、高末末二人、身次、南池博を奉り  
午後、齋儀、つぎ、吊状を奉り、施書紙  
味、雅志の房、山、三、稿、半、成、三、敬、集、此、巻、に  
新刊書と贈るに似。

二十一日

昨日朝未原紙を巻り、成三、田村社ニ寄  
今の借金の巻、つぎ、身次、飯、次、弘、花、生、ら、注



狀を施す。 小森又よ場士、自らもの奪工之  
の顔面と銘、午後御人の囁と名、家持の印  
數十顆と印、持し時を費す。

二十二日

晴、龜山車三宗、星石、雲根、石仙、一幅、海田山、  
一幅と持ち来た。 望、あけ七、辰、祝、武田、  
使、自、り、押、毫、二十、紙、を、交、付、今、の、午  
後、白、木、を、講、を、と、講、法、を、と、す、約、ち、う、一、時、  
此、の、自、動、車、を、と、赴、と、余、の、日、本、教、味、の

淵源を階、此、序、を、と、本、山、新、舟、鷗、月、左  
ち、西、村、文、則、健、文、此、と、點、貝、未、三、  
事、津、田、ち、根、オ、と、合、す、予、の、後、況、後、  
降、と、辞、と、お、世、の、所、お、時、并、居、修、儀  
を、托、し、持、時、と、月、元、の、非、ま、あ、飲、心、  
地、と、非、山、利、久、と、未、書、

二十三日

晴、朝、来、給、ね、と、書、す、家、持、の、印、  
を、而、許、持、り、丸、田、二、り、其、子、の、お、ね

庫中より馬鞍、鞍を坂本嘉治馬車ゆかりの鞍  
右五十年に念々入つて云々、午後七時餘を  
筆下す、東無油查令と書し未書、小森久平と書  
出利、関大ら、笠田直流、松島、松島、松島  
送す、

二十四日

日

時、十時をも出ぬ丸に物と書し淡吉の親吉  
と書し上り書店、と書し、休むに於て秋田  
出土の石硯十個を箱のし物く、午後七時

穂原製

新のり、もて、服部、時不の、松分、と名を公、春、歩  
小杉、山、文、山、陽、細、香、文、書、商、と書し、未、書、う、録、之  
を、七、と、書、し、廣、島、出、先、印、月、軍、の、や、し、と、書、し、加、藤、院、  
を、定、め、る、者、の、年、商、利、と、書、し、と、書、し、と、書、し、と、書、し、  
刻、と、書、し、と、書、し、在、り、先、の、友、人、と、書、し、支、那、玩、具、十、数  
點、の、り、と、書、し、と、書、し、と、書、し、と、書、し、

二十五日

時、茶、あ、れ、の、り、身、法、松、島、と、書、し、と、書、し、と、書、し、と、書、し、  
り、と、書、し、と、書、し、と、書、し、と、書、し、と、書、し、と、書、し、と、書、し、

六午後開二乗一七旋帳を拾一書印に付すハセ  
若干の物を檢出す坊内場士等々重徳に  
臨り方付添の山田清心とて報一東二八月甲  
四印とて寄也酒一枵房時とて来書

二十七日

晴、北山田清心、前夫等日申、  
也と書す、方田半奉記、  
今の石井英文、  
十時以、  
標原製

多、  
物、  
を、

二十七日

雨、  
集、  
切、  
す、  
役、

二十八日

時、龜山寺に三區位代四十日并に改上は成り  
注射を施す、各所多祀より衆を管統を任内  
士死去す、其の有無を問ひ事んとも余の方、  
未だ何等の報知ありとも、漸や、今朝十時  
半死去と分り午後一時半早大の田中法衣大僧  
韓子同付、執事あり、速散り轉り、心に未亡人  
と語り死歎と相し、二區に皆々葬儀の打合を為

棟原製

の、執事と形も直親と所長とるん生お式と行ひ  
速散り、於て茶食と附し、四日の相違、宵半まで  
入り直り、また山齊坊の運、一時に葬式を行ひ  
一時、二時、三時、式と行ひ、速散り、執事  
の海蔵寺と擇ち、その、速命、信入、戒名  
ハ奴、梓院、終道、追々、若士、妻子、自、命、下、す、  
後、不、確、ハ余、地、主、権、任、四、日、夜、末、江、香、松  
追、悼、祝、儀、と、す、す、等、凡、と、決、し、三、時、の、汽、車、  
田、中、去、江、島、中、(申、夫、論)、等、と、得、京、今、年、八  
一、と、細、書、別、と、す、の、書、存、と、ぬ、め、る、書、物、展、理、  
機、利



記非：町氏のひきまめ式あり余臨す

三日

日

小の朝東有竹と草子十数紙成る湯ヶ原に  
美の病中の丹兵衛来ると来書坂に献書  
る余の指稿をぬめり蕪手術殿に指  
列午後寝起髪に時を移す夕刻まで書  
柳舎抄終る有竹と草子伝す

四日

稗原製

昨早橋の文と記者逆見廣く江春松の  
此より来りて是の道傳文并に書に墨を  
能流にぬめんことを清く流して墨す  
り發金有る田川出り十時四十五分  
の途に骨熱海より列連三月五日  
廣くして吉山二海場と列の此早大中  
生ハ東  
東野前ニ橋列し各割壇の例係者ハ  
プラ  
ツトアスームと橋列し早大文科生ハ  
尚場の  
前ニ橋列し北観を以て其の時三十分  
式を名も早大徳長文部大佐衆  
衆湖院

漸次英國大使と妃の各団体の吊詞あり、丹  
室刻ニ時前々々告め式に移り、吊巻を  
の如く列り三時場を閉ぢ、内家の遺骨を  
掘りて飯下町の墓に列し、明日更々遺骨  
を執海に移さんとす。移定也、今津八二  
り来事。

五日

明初未早稲の天冬、此は梅田君と悼む又を存  
して成る、此の如く和男と来古才村教太郎  
り過る、此の執持を定めてある、昔橋本洋と過る

榎原製

の青いこのとき来者、午後中央は神に定めてふき  
掃金物修と業心、一時時間をあきらめ、今井  
一印、其の如く、此の如く、此の如く、此の如く、  
載せんことを為す、此の如く、此の如く、此の如く、  
り、執持を成り難き故とわづらひ、早稲の天冬、  
たる、此の如く、此の如く、此の如く、此の如く、  
へき、此の如く、此の如く、此の如く、此の如く、  
家造骨を掘り、自動車も執持せし、此の如く、  
、さうして、此の如く、此の如く、此の如く、  
男の如く、

六日

明報東早稲田文芸の「さうりん」(近世)を博覧の  
支古校訂し、早稲田報の使に附し、「近世」の  
をとり、の一編と早稲田文芸の「近世」へ  
命ず、早稲田文芸の「近世」(近世)  
の「近世」を出し、一内六幅字とす、  
貸付す、森岡美樹、  
大隈展と文芸の「近世」を載す、大江の「近世」  
は、中央の「近世」を、  
き原福を、  
二十幅字、  
四時前島家

穂原製

を「近世」の「近世」を、  
「近世」の「近世」を、  
三人の「近世」を、  
を「近世」の「近世」を、  
山田「近世」の「近世」を、

七日

明報東中央の「近世」の「近世」を、  
「近世」の「近世」を、  
「近世」の「近世」を、  
「近世」の「近世」を、



午後前島男の共家式三端又四時由宅、真砂入二  
本、中央公論社三箇より徴税、票利、的、此、年  
河の手記、書籍、採、と、随、年、手、の、材、料、を、採  
る、其、時、入、二、々、相、手、の、家、こ、と、二、り、

八日

時、朝、日、双、柳、會、社、終、を、補、筆、し、し、時、を、費、す  
カレントに、<sup>不</sup>ヤリ、<sup>不</sup>施、法、の、記、者、も、あ、ら、増、ゆ、て、其、の、  
地、中、し、を、も、ふ、じ、あ、ら、と、流、す、中、央、公、論、記、者、も、  
法、大、口、も、印、刷、株、式、会、社、も、十、七、日、未、更、合、議、

榎原製

一、折、河、の、あ、あ、ゆ、折、河、と、午、後、帝、國、會、社、に、  
き、同、と、折、河、會、社、の、現、在、令、に、跡、に、留、来、又、直、達、  
第、一、種、を、主、つ、折、河、に、流、し、自、存、の、取、集、  
上、宮、飯、光、と、定、り、せ、り、あ、ら、

九日

時、朝、日、前、の、者、き、つ、け、は、る、中、央、公、論、に、あ、り、  
へ、き、稿、を、校、訂、し、終、り、の、社、の、使、と、流、す、又、他、の、稿、  
も、校、訂、成、り、薄、田、も、教、育、の、前、島、家、と、  
十、日、三、又、中、陰、日、つ、き、日、大、隈、合、議、折、河、と、  
来、り、十、二、時、四、割、商、上、令、の、折、河、と、合、議、

赤日現る今、~~物~~おむる道場を此後、の遠く三座仕立  
寺をも追悼の御借事他、に例し、古時を懐  
懐す、大石現用花、馬の報あくる丹兵協平  
物因りつき、其初、夜来、低強く、戸を叩て  
志なく、戦をさすなり

十日

日

吹風、蒼術殿、至務を全うす、七のき、山功、簡  
す、在、北、河、丹、兵、原、あ、り、荷、り、又、左、右、の、漢、り  
を、心、す、へ、き、こ、あ、り、中、央、に、論、り、休、養、観、次、ら、り、

穂原製

簡す、今日、陸軍、記念、日、り、て、重、上、御、臨、幸、あ  
り、高、崎、居、る、と、大、山、元、帥、の、居、居、観、ん、ら、り、と、今、日  
、~~高~~、崎、人、の、つ、き、行、き、親、ら、り、午、時、に、お、お、の、三、福  
、二、酒、飲、り、て、お、く、ら、り、と、夜、あ、り、男、初、ま、り、つ、き、日、家  
、二、お、ん、大、阪、を、こ、ゆ、ら、り、の、學、を、ま、り、と、早、稲、田、文  
、~~学~~、の、遠、見、居、る、お、い、道、の、書、問、を、供、り、や、り、と、  
め、ん、換、あ、り、い、ら、り、と、昔、一、冊、の、ア、ン、ハ、ム、と、  
ら、り、

十一日

市、朝未能ぬを著す。田村北二、其母、野々林  
あまの月、四月二〇日、同方、松崎宮の、海、法、金、  
道、道、坊、十、四、日、主、海、法、を、宗、山、派、し、と、す、本、有  
久、雄、の、信、介、も、神、崎、法、未、井、百、未、宗、〇、二、海  
堂、と、托、て、通、道、宗、と、同、す、海、法、金、と、出、法  
と、法、山、と、す、朝、鮮、慶、方、南、道、西、川、島、関  
大、一、〇、〇、未、商、早、大、板、ち、合、も、道、道、の、宮  
法、の、此、き、板、友、し、板、和、ふ、又、三、月、の、道、道  
の、業、を、の、法、中、関、の、法、中、守、し、と、檢、出、且  
つ、懸、理、し、と、時、を、移、す、稅、務、署、所、得、届

穂原製

と、さ、り、今、年、の、僅、か、に、二、千、二、三、百、圓、の、こ、と、を、す、印  
刷、會、社、と、出、版、部、の、所、得、を、欠、く、か、也、

十二日

市、今、朝、夕、の、こ、大、石、此、日、死、云、雜、法、カ、レ、ント、ヒ、ス、ト  
リ、以、居、好、と、考、す、考、法、考、合、し、し、考、を、三  
月、十、二、日、都、市、法、務、局、本、館、受、入、山、田、清、心  
本、功、山、殿、の、存、心、を、奉、公、の、き、草、紙、を、贈、る、  
中央、公、論、者、も、松、下、果、庵、も、感、冒、の、氣、  
味、を、終、日、草、中、に、た、り、丹、美、茂、物、有、る、の、き、直、法

十三日

晴、龜山より買入志願田田仕掛の爲の控帳  
の帳巻を大石現田の香典の爲に打合せの上  
山花より注射を施す、下山錦をくびり又  
箱打正の上送り、中央公論社より余の寄附  
の帳正のつき未決、善本影謄配本山田の  
北へ未書、道遠侯書等の材料を提出し  
て時を移す、山本堅三太夫の死へき未決午後  
等、就く成る酒と清き不此を以て  
也

藤原製

十日

晴、片山利久に荷す、亦山鉦大くく未書  
其巻より午前より等、就く感冒未全  
前島勘一に答礼に未了、村山毫路も未  
道遠侯書を終る、感冒未全終る等  
中、に在る

十日

晴、朝来道遠侯書等の巻約と整理す、  
今、は、一、の、宛、め、り、し、中、田、実、子、様、に

品の神毫を托さる、神都鳴林、鳴るる  
早園方路の神文の神毫成る、此は  
遷徳大り、此は、梅原博、此は、  
畫極敷點の題運を頼る、

十六

此は、道(邊)墨敷點の、若くは、題  
漢書、の、稿を、校、し、時を、移、す、上、  
次、因、者、給、場、の、考、し、未、書、去、江、  
亦、田、村、在、次、り、未、極、午、迄、く、小、  
之、を、

棟原製

此を、新、名、の、三、福、と、酒、飯、し、葉、先、の、  
移、す、と、示、者、是、漢、書、の、稿、を、  
理、す、朝、鮮、泗、川、書、漢、大、り、未、書、  
東、京、今、終、り、日、法、秀、英、合、同、大、日、本、  
刷、合、社、校、官、の、合、名、り、或、日、月、未、  
さ、る、出、版、し、未、合、者、五、百、人、  
終、夜、烈、風

十七日

日

此、朝、来、三、三、子、の、考、相、  
中、央、公、論、北、下、英、  
村、山、物

しゆ未林陽美折其橋おき終森田とてとて不  
クキ七燈り来ふ、松下吳磨、河上、午後教  
采、上中喜永次、押直元と其つれお出中上村  
後支(有村振興今地)と其次、夜来南

二十八日

つ、出井盛之とて未尚金老る田預金  
川出、入洋念寺、寺附三十五田也、市崎鉄平  
、節是とも、林ある三四月二日の待浪合、へき云  
とて、村山、山崎、上村、原若、其、午後教

穂原製

業、立並、後丹、其、原、来、とて、未、と、未、尚、金、老、る、田、預、金  
其、の、出、入、洋、念、寺、寺、附、三、十、五、田、也、市、崎、鉄、平、  
夜来南

十九日

而朝も寝る感冒未癒えお、政上を頼き  
注射を病ふ、余の云をわをわ、中央公論  
予の病後をぬめ、キ、ン、グ、別、其、山、西、清  
ま、し、三、不、喜、永、次、書、物、展、望、を、社、も、も、不、喜、永、次  
即の雪桐、集をも寄せ、其、河、崎、鉄、平、

未も未書、及びのりぬ、沈文子海鏡、  
生序、増田海士、龍を海鏡、  
やみ、凡節の、  
新り、  
墨七點、  
早稲田文書、  
行、

二十日

昨、中央公論、  
氏、  
不場、

穂原製

華祝、  
追、  
龍、  
竹、

二十一日

春季皇室祭

明、  
二冊、  
計、  
去、  
出、

即ちと云ふ、早稲田又さう河村を主として、  
花入の雪交りに、

二十二日

夜来の雪今朝三寸積り、森脇美樹を招き  
し文の書院傳金河魁し大隈家の信作  
一併二つき内宿す、頂上山麓を、浮射を  
く、朝鮮泗川関太郎を、午後五時、  
り、母平衛の病を、本の文の場、  
例今あるも、又席下、刊の、流傳年史、

二冊を、近所の、石角、山陽書院、  
鑑定を、と、て、遷す、四時、  
次、方の、本日、今、  
く、帰りの、早大、  
刊、

二十三日

成、大江、大石、重雄、  
森脇、大隈、  
米、  
漢、北、  
大



辰日預金三萬圓が根振南とらうてあり、  
大隈長内三萬圓を引出し、早大年賦金を  
百さんとすも、つぎ、余を以て、  
押さへおす事とす、余を以て、  
任めん、  
いふと、  
つ余のみ、  
村も連累人うも、  
美めん、  
より、

榎原製

比が老若田を賣ち出ささうと、  
ハ貴下を煩さおとの振立り、  
の個人名義、  
田打振南と、  
大隈長内、  
所野め、  
のパンフレット、  
を編、

二十四日

日



能くつき住友銀行の二ヶ月預金証書を當分の若  
し年十二月末期迄に満ち擔保として五千元借入  
高坐預金五千元を得せし返金も元つ借入  
を却返す五月廿四日より約束する形を貴方の  
山田は心算なり今日午後増田の意見を換  
察の爲め余の外出を清ふ或日未食くさ  
んと云議す、亦安田美智子に余の花品を交  
却すべき大体先方承諾の事と山田に語り、田中  
壽石の著作一件の事も亦お教を乞ふ所の刑  
事調査片の正確なり、田中が余の右刺

標原製

を偽造しと云ふ詐偽を働かざる刑務本  
へ八人といふことと云ふ事、依つて余を佐未  
書と書き此つゝ、新打出の事、西書考後  
り、午後夜をかめて桐山山田等と道邊の  
泰石を換付し、青山の石倉を訪ふ、更に  
世田々（山田）の庭石を集る、園の榮田徳次郎  
方、換ふ、伊勢、ち、石の以、既ある一石を  
七四時前出書、中央公論社に謝意を二  
百十六圓利息、今計八一と未出

二十七日

時、感冒未愈へす朝未就寝を重く、田村銀  
行の全取仕末を頼み、操は行の証書に、書状  
を添え、此様令に文の協会の現す、長の  
職を辞すやと云う。辞表を認め、大隈令を  
提出す。中央公論社の借金二万七千五百一  
千、預金入りの金中、三万三千元、日本橋、物  
務の取組、券中、淡書夕利、判り。

二十八日

榎原製

時書物展覧会も借金を返す来る、昭和九  
年分新日路鋪、役員換金三十四、四十  
五、五、納付、并、得税并附加税百四十四、四  
十、五、夫、納附、因、丁、一、人、身、に、除、會、の、取、の、備  
を解く、或、自、未、金、へ、す、る、券、中、に、入、る、日  
露、大、戦、に、り、三、十、年、と、経、了、今、日、高、時、冬  
戦、の、特、星、の、存、法、新、日、路、新、日、路、券、中、に、淡  
人、に、感、概、に、堪、く、か、今、に、於、て、是、も、其、の、後、役、の、無  
理、の、強、い、あ、つ、た、こ、と、も、感、ず、る、と、云、ふ、よ、く、山、提  
利、と、得、と、國、運、を、開、いた、ら、ぬ、と、感、て、こ、ろ、と、得





時危公半に酒飲して物いり道退の巻こ  
おと押直也、不在中和田島と未三人有次百  
田半峰来、活感冒の為め浴と二週を病  
系初と浴す、院向ち田とおれ多くて其正派  
のまの石に包み、小井久平と未出、依  
良大平の許に揚す

二日

時松井郡次二箇、林野俊次(良大平の子)  
二吊杖とあるす、此山島勝二箇、印杖送、石塚

穂原製

三印身の義遠を此の巻のまも、出羽牡丹  
の五貫七得、午後四時、白河の山、林  
権助の自叙伝と後、七時、一橋もりの  
一橋清巻とあり、同書、此の巻、日、高、この  
き、梅、今、し、清、法、余、と、用、く、余、梅、の、梅、士、と  
梅、の、り、下、こ、一、時、分、の、清、法、一、九、の、中、の  
も、満、沙、田、皇、帝、今、報、の、景、為、夢、日、本、に、向、い、せ

三日

神武天皇祭

此、余、の、地、著、を、ぬ、め、り、お、徳、カ、レ、シ、ト、ヒ、ス、ト、リ

利未、田能村井田全集(待部)配本、利未此夜  
の強漢著記と校訂して林安と郵送す。  
和田未亡人二道簡を授す、印三法新油代二万  
七千圓支出ぬ所、棄し貯せしと漢考を廻り  
り散果、潤大りしと未簡、文禄後、潤す古  
虎を考てある。

四日

時、今利能村の墓石の刻を書き直し、越後  
村の山田清心に郵送す、四郎守と

穂原製

未書、龜山書三入洋城士不存、山陽待部二  
良定、便面宛の「和考」と抄ふ乃ち書し、此不  
午時、新町の三福と酒飲して帰る、在朝、題  
西川潤高の簡、授簡、併以、利と漢を  
山田清心に中島芳男に未書、通官兩と  
懇く

五日

兩館の「和」段、金二万圓引出す、頼母未結、先  
以、和考、是、洋氏、島山湯待部、の、録、定、を、地



以来より松崎の里に法也のり物と取つて  
去る、漢書に時と移す

六日

時、滿洲回皇帝路を過り善州 聖上親一  
くや出立、道中法也高松澤三永祐、山田  
比事功、堀内家より物を寄せて身、春陽光  
の今村隆、國醜令らるるお首より、永次平  
後とある書次らり、文印をへき、回者の検出に  
時を要す、今九江多飯の時令、跡ある身令

藤原製

有田田中印月并に余アノ人、松井郡流よ  
り来り、前夜未又雨

七日

日

時、前島家より香奠(一)の物と取つ来り、松崎  
四ノ字尾の海より来書、お為命三ノ中と取  
て、四種分文と共に自動車と共つて一江  
申者園を初めて、いふ今をいふき午後田中  
哲三の四性剣を觀つ、一江江尾川に  
入居し、江戸川折返の河せ、田中印月をこ

法服の任をせしむ。一、骨塚あり、其の合あり、  
圓柱割の舞山に寺あり、任宅七本此内、あり、  
よく手度き、あり也。余の、  
この、  
須芳次、  
相合、  
田中、  
後の、  
松、  
減、

稗原製

法、  
投筒

八日

此、  
山、  
つ、  
扱、  
飲、  
へ、  
未、

九日

時、移海、悟六、月、功、運、移、白、鹿、と、知、る、橘、瀬、恂、玩  
七、未、法、改、口、献、先、又、来、る、十、一、時、と、出、飯、丸  
此、九、の、物、も、種、小、上、の、月、中、に、飯、と、物、と、  
不、在、中、中、田、實、来、功、物、を、終、つ、と、去、る、午、辰  
あ、回、に、去、り、印、す、人、と、花、来、の、日、知、と、心、大  
不、理、因、達、族、も、茶、茶、一、具、を、客、と、り、あ、る、成  
河、花、波、理、一、り、身、も、夕、利、と、降、而、為、成  
悟、六、和、田、未、三、人、と、来、出、夜、来、而

榎原製

十日

雨、春、風、飯、味、海、来、の、臨、兼、下、を、出、飯、と  
一、今、朝、略、目、知、を、著、す、山、田、海、危、と、来、公  
東、山、来、三、去、る、海、田、の、寸、必、就、書、横、投  
中、田、才、台、切、産、を、お、る、来、の、七、日、も、投、し  
と、精、ひ、入、る、水、島、由、と、物、と、来、と、四月、十二、日  
隈、の、今、の、道、を、来、と、改、上、功、花、す、あ、る、注、材、と  
施、す、中、田、實、種、の、小、品、を、齋、し、来、り、未、す、金、の  
小、品、書、意、花、を、出、し、未、す、五、十、時、鐘、を、と、味、香  
醬、油、列、来、午、後、の、時、を、去、り、十、八、時、を、同、方、能

七換出時を移す

十一日

雨ぬ池水漸く満つ、春陽玉の今村隆と余  
の隆弟と就て来書、中山房と島内俊三  
談、中山房社書政本全か所花の山館持表海  
高日法割愛や其のつき梓君有蘭一卷雜  
著稿本三冊と共に割愛す、善本影請  
配本十時先を付めて出遊東台の梅花と見え  
終に陽田公園の梅をえいゆみ高島屋舎を

穂原製

酒酌して嬉々ふを市に雙の直次朝辭と  
出遊市来海、関方中にも来者、北城新報  
社とて春城入りの海園と日々の言ふと  
空のそよあつ、中央に洽社と余の客居の印刷  
の校正を求め来る、外出中難波院一と和  
田末七人も海、收唱生と馬子遊く、

十二日

雨、平地登美夫、其法、隆と和田末七人、其  
今村隆と投簡、余の隆弟、早稲白と出遊

先とまゝのまゝに試み、又目録を乞ふ書法を乞  
ふ来書、上海の新聞に於て祈禱世界を来大  
今より来書、梅津は徳小の遺、向所望  
二つき二色郵送、今井一郎に荷す、午後  
三時、安田若水とて存みて、交印するを同者并  
二印の目録を示し、後、稀有複製、巻金の印人  
と共に例の如く作法し、宛名の宛名を受  
中九時、向書、望月甲申の申、運、臣、清、心、も  
来書

穂原製

十三日

時、招川第何ら、其の春、瑞雪の今、村、降、来、の  
予の箱、墨、隠、善、隨、筆、早、箱、田、の、二、隠、筆、  
主、出、版、見、ん、と、請、ふ、の、き、又、目、録、を、乞、ふ、白  
今、七、二、三、月、内、に、版、籍、を、約、す、山、田、何、心、  
て、来、り、安、田、若、水、次、中、の、八、金、の、割、に、受、取、る、に、對  
し、二、三、〇、中、内、金、を、乞、ふ、山、田、を、請、う、方、法  
の、如、く、と、報、す、朝、来、信、に、主、子、を、乞、ひ、し、也、八  
枚、成、り、午、後、傳、へ、い、教、東、銀、行、に、物、を、請、う、の、也、  
又、村、山、亀、鏡、も、来、書、村、山、如、し、の、も、海、物、到、来





徳の取る尾義直と未書

十八日

所 辨東地筆を福子、朝方、専賣、白の、大流  
庫、去、と、未書、と、色、向、を、投、す、早、大、の  
杉山、湯、迄、不、日、洋、行、ま、の、き、告、お、の、を、物、利、の  
午、後、回、者、を、惣、理、す、故、有、嘉、江、馬、未、活、余、の  
割、愛、し、得、六、望、君、湯、交、者、日、徳、者、向、辨、本、に、對  
し、五、百、四、路、う、未、と、今、夜、赤、坂、溜、池、錦、水  
二、日、時、印、刷、重、役、の、當、今、と、い、く、余、の、具

榛原製

費、し、七、五、十、圓、定、有、例、す、日、法、の、所、有、株、平、山、堂  
美、天、に、交、り、新、株、に、換、へ、ん、者、也、高、山、と、と  
歌、舞、伎、屋、觀、劇、の、事、日、此、利、未

十九日

所、余、の、名、道、法、書、高、と、定、の、せ、た、る、上、月、辨、中、央  
公、論、に、振、列、早、中、と、と、今、湖、の、書、札、列、未、十  
時、と、散、果、未、記、生、と、叙、し、向、未、尾、義、直、の、稿  
を、修、去、被、送、向、と、と、廿、八、日、余、に、昔、一、の、生、法  
と、巻、す、放、送、と、と、信、頼、の、考、め、向、久、す、ま、の、る



未読、書誌の今も、合本の能徳才三巻刊未  
岩上方外落款印講大全」と心んとし余の  
印影を綴り未。

二十日

昨朝未読業の福を修む、日本回歩故柳舎の  
来者、各々ありありの社員二人未読、金五  
円者一りの支店に預け入る。午後散策上野  
迄、別りゆくも、五時虎のつ起早朝、早  
中社員会といふも、中學校長を評任のき

標原製

金子馬法を後注すも、昔に後日未決業  
と評決あり終つて教職員と合食、大時  
宅、長濱彦一、去りし未書

二十一日

以、栗林母子の功物を贈る、野山  
清心寺の功物の遺物河野寺の  
子孫并、信者物を贈る、午後給生  
出、相を贈る、物、ボスマーの長  
今、出、海、家持のおスカーを授け

去今朝甚濃台中入大比客ありたり  
兼有、証七死傷七午二上の報あり

二十二日

昨朝来臨書下の宿を修む、田村社二戸又  
訪、坂上心花を注射を多く、村山秋浦生  
活、去の文化店訪分の需、衣に家為の  
ホスリ一敷四十四系を貸付す、午後八  
日放送、ふんき多利を心日、午後八時  
全柳成る、秋進馬竹紙入死原稿を新

榛原製

送す、午後死原稿修む

二十三日

昨、又江中二返流、光を付せ出遊、高の風月  
中、飯く、船中の腹部持せ、店に檢下時計日  
修儀を伝、野良一、時比、二、内、隨着の宿  
を修む、舟上、空を、中央公論、七、野、拂曉  
迄、送、三、又、父、あり

二十四日

昨、日本同者、臨場、あり、二、橋、海、を、三、粒、七、余

の海濱の際撮影の小紙と寄と集の大口本  
印刷会社ととも口口印刷を復と日号  
の七紙と送りしと手は金とら。及何茶本  
来る、及何自刻の良書と書樓聯二枚紙本  
二枚兼二折紙紙本一と紙と余ととも送  
の題冊二枚書り、屏風一雙の押書と古紙と  
と、讀も山の侍心と書、複製本一配本  
午後飯塚たつら山陽道と書、題と紙と  
と書しと書ふ、二時と散来丸と紙と贈り  
ゆ、中央公論社と謝金百四十の利来

穂原製

二十五日

時、武田聖四郎と物と贈り来、龜山  
書、三才の山陽者幅、題、服部時計  
店の陳列を觀、才一紙り、預金と百甲  
田勢け入、東洋文庫と、岩崎文庫和  
漢書目録と贈り来、報社と、四書  
展覧会、の招待状、書物展、社、の、  
お昌三と、余の隨筆、の出版と、  
来。

二十八日

明、阪口献吉并天恵の件来返、随筆の稿  
を終め時を移す。雑誌二三枚著し、平山  
を〜大冊入札目録と名を可也。

二十七日

明、朝来随筆、名稿の整理に取かゝる。昨日  
を費し、冊共兄弟来返、併に以前より三稿、午  
前を共し、山崎、中山、山崎、歌長、佐藤、観劇  
三稿、光を代へる也。

穂原製

二十八日

日

明、高橋昌三、向す本稿、目録、随筆  
の原稿を整理す。健文社と社内録筆の  
茶道一卷と名を可也。上巻に掛ける。朝心  
社主催の回覧展、説合と観之、夜、各、及、放  
送、各の自、動、車、〜、四、八、七、時、三、十、分、昔、し  
の、多、生、生、活、の、活、版、を、試、み、版、行、全、部、を、後  
す、る、の、時、間、を、〜、二、三、時、所、を、〜、の、遺、稿  
也。

二十九日

天長節

晴、満園に保赤花咲き乱の初長の氣漲の十  
 時驟雨ちり朝未だ花散りて暮しき 和日美しき未  
 香、山田古池に水ぬ、道邊遺物しき已般河  
 菖蒲の香を空にんか更々ニ沙栗山系山場  
 生念の情を好む日本橋とて物を辨か高  
 晴、倉倉名に鶴して物こ、坂内未三人に湖心とせぬ  
 中、浮雲の兵役閑像の仙台の外くまつき未、撫石  
 庵の茶乃と後心

藤原製

三十日

雨、後雨相来り多ね花散りて、月未夜用さるぬ十日  
 頻金引出さる、夕時御手洗河未かの人北川登  
 下り星中、天よあ若若山集と空をせぬ、文の  
 巻しき来書、故上公花も例の注射を多く  
 添木直一、投商、千原能保と著す、

○五月

一日

晴、菟山書、今村隆竹内尉、伊多保輔

利海木直一、飯塚彦次中、まゝに其の如く  
予が遺業中、日本風味に則して其の如く  
一部の遺業を伝へんと欲す、中々欲次と  
傳書に、孰も未尚、飯塚を、飯塚風味  
清と略し、豊田火災保険と未書、午  
後遺業の稿を終ひ、申供して日あり、稿  
執筆

二日

昨、春陽書に交付したる遺業、原稿を稿正

理し、其の如く、飯塚を、飯塚風味  
予が遺業中、日本風味に則して其の如く  
一部の遺業を伝へんと欲す、中々欲次と  
傳書に、孰も未尚、飯塚を、飯塚風味  
清と略し、豊田火災保険と未書、午  
後遺業の稿を終ひ、申供して日あり、稿  
執筆

三日

昨、遺業の原稿を整理し、古任鑑書の一稿  
を書き、尚書館に投ず、故に其の如く、  
三十日刊末、在、大政武田上巳、其の如く、  
原稿を稿正

三福の酒の旨しと由書終伴臥竹内撫石尾  
しと大極意杯五文を之のせりある。

四日

時、竹内尉武田日月上巳に祈す、今村隆之陪著の  
の原右と美佳、日本圖書出版協会のしと未書、  
豊田火災の保険料四十兩拂済武田中田  
即ち未功、其の折り帯の好む迄迄の書幅と  
題匣。三十田新の、形々入る、午後讀む、時  
を移す、紫雲の形大節しと未書。

榎原製

五日

日

時、朝来押是絹本十幅成る、紫雲の形  
即ち春秋合の記とと扱ひたる大政の内  
刊報のとき、中々ある、武田豊田中しと未書  
簡、日本圖書出版協会のしと未書、大木河子  
来、午後未押是、小本儀しと、錫田田松  
造武田豊田の考にす、紫雲あり、簡、二時  
過驟雨列る、大隈寺信濃係文書書才と  
巻出、所、海、造しと、紙本を去る、竹内撫  
石尾しと未書。

六日

嵯峨木造と草子、守山堂と書画と  
日取別子、預金載る田米、田舎場子寄  
附海三十田引出す、井内尉より、田の  
井和歌と昆布と貯る米、お口の定規  
大掃除、先づお二三の室の掃除を  
お千代男女二人来り、お利紅美飯の  
今、臨去、和田垣未亡人の訃到り、夜来  
睦合出居り、若き田村平次、田中未  
と全六名

標原表

七日

今朝ぬぬきう人を俄とせり、こりつ、き大掃除  
を行ふ、三山の龍原飯と、渡焼の麴と、  
おまの、石塚より、おまの、物を好む、先と、  
と教業、お此危公、酒合して、ゆく、和田  
垣通三未亡人、おまの、おまの、物を好む、  
す、既刊の余の逸事、五程の内、お日本故味  
を、お此危公の目録を、お井内尉の依頼、  
信り、中央公論社、一言を、お代、  
五程、購入を、お入る、









証書列三、他筆名符と整理會、平田登美夫  
才、印、日本印刷會社、改山株券、銀収、梅原  
博六、未出、内子の義建、成、午後神樂、  
迄散策、東都谷村一大、  
寄、

十五日

西爪井上辰九、  
梅原、  
三、  
積原製

言、  
午後、  
の、

十六日

所、竹内尉、久保田勝、  
扶、  
新、  
リ、  
す、

十七日

時朝未向宿と修む管内尉より幸内宿付と  
其に在法今を遣すことと云ふま、書法今を  
り未書後及村漸其來宿、金野、深田、木下  
の深谷、真、と、色、成、那、の、法、酒、を、寄、せ、り  
之、井、上、路、と、大、江、乙、路、の、イ、生、法、四、時、出、回、美、次  
部、と、法、の、稀、と、後、生、志、回、人、今、三、臨、志、伊、奈、井、古、に  
因、入、今、今、夕、と、同、席、例、の、如、く、催、談、九  
時、由、吉、向、上、今、と、管内、進、停、今、の、心、事、也

十八日

稗原表

時朝未向宿と修む管内尉の宿を此へ深田、志、美、壽  
祝賀、寄、州、暮、集、の、書、批、判、入、向、上、今、と、云、ふ、也  
迄、の、遣、墨、の、複、書、を、寄、寄、せ、り、也、又、竹、内、尉、深、谷  
真、と、同、く、井、上、路、二、路、寄、集、成、に、就、七、未、法、法、  
日、谷、の、式、と、也、也、若、能、春、秋、と、寄、寄、せ、り、也、  
部、に、修、儀、と、托、し、修、儀、十、時、計、出、来、り、先、と、修、  
七、下、谷、法、日、に、致、す、深、谷、の、式、に、謝、出、と  
書、す、十、畝、今、と、六、月、一、日、表、進、今、の、心、事、  
也、判、也

廿九日

日

所敷月目より理髪市の神宮尾の一梳春風の  
 額を乞ふ。朝来在るの教家筆より、向上今とて  
 適逢の字より、拙書（道達）表拓本到来午  
 後市時存に鳥居法未冷意陣列、ルイ  
 ニヤ刺満長、西方勝雄創作ニイ下ルレ  
 長と親物を短少と仰え亦及稿を筆心し  
 夕刻と列つて已む、今夜鳥居田御入書法との  
 今ありとる序

穂原製

二十一日

朝来随筆早稲田のるおを乞ふ、改日献吉  
 来書、原人一印、来書且つ白評の圖書  
 と考もよみ及所栄支印人山本可料と仰ひ  
 来又及所の考め道道遣墨の遣に題す  
 高寛の額而拓本と題し、客去つて亦原  
 稿を著心し、十枚成ふ。川瀬一馬稿を記念  
 今、つき来法、り終河、お全集才十九回配  
 本、午後とて文氣変つり、驪和を借し来又  
 留、留、留、午後教筆、供ち道逢の才せせ

讀之、原入一印二書を記す。

二十二日

晴、江石山森存し、未言朝来原好葉也、  
雖波野々、月法野を以て山花も、例の江射  
を記し、ある片内梅石庵、舟のり、又刻書  
田霞付在、冬り此是閑寺と山の橋の序法  
今と語出、ことせぬす、つる寺、高の量田神  
社(縣志)し、客附生の請来、秋別、午後亦原  
稿の筆化、時を移す、二時頃、等と同一く

藤原製

驟雨別、雨申(電)を交ぬ、雨をそり、降雷満  
地、白珠堆をもち、土時大隈合、枝にけり、道(道)の  
追悼、今、臨む、今、衆百名、席上、一場、の演説を  
試む、坪の家、六月二、百、名、法、安、を、保  
み、け、野、法、庵、寺、境、内、と、巻、行、し、身、内  
別、列、す

二十三日

晴、横山、墨、彦、イ、馬、ウ、山、湯、書、幅、の、鏡、堂、を、以、て、  
不、定、し、と、述、す、古、年、大、佛、記、高、本、位、田、集、記  
集、下

若をばを余の北城子年二對する説をよき  
乃ち物流と筆記せしむ、思録廣告に附し十款  
今や遂に冬加と申すは只序に越海の  
道法安、臨志都令也、平凡社記者茂木  
道志、其の往年報に記名、越田筆城の  
「日本史略」を再刊す、つぎ「宣徳保壽を  
審るる」のとき即座所見を筆記し、此  
記述はちよきも未書、前月又の古板の未  
見、借金の内之者、支拂の為、老戸内類  
全証書を携へ、任及支店と云ふ、  
五午日

借の金、今更に印のとき、携保をよ、辰す、  
西内  
形、全家用に引出す、今打隆に附し、且つ  
友村を郵送す、此月軍田中、に附す、  
今夜、建文社の、熱見赤の、  
山、の、橋、の、府、法、令、と、催、す、余、と、幸、由、家、付、  
も、中、心、と、し、七、巻、谷、の、如、是、閑、津、田、吉、村、西  
村、文、則、赤、内、尉、木、村、秋、舟、寺、席、に、附、す、  
余、の、露、付、と、三、十、年、振、りの、金、見、る、に、席、上  
程、りの、意、の、西、淡、出、つ、



廿四日

昨、卯三和紙行、勤務の鐘田村生、丁年長を  
報し、未三打山此の御事、村中幸右エ門山湯  
幅の鑑を乞は請ひ来り、故川上理一、長子一、  
泗川、大ら、故川上理一、長子一、  
の公金、四葉の横領、吉件を報し来り  
洵といふ事、のりも也、内子、  
を迎ふ、午後、供人の散果、  
路、少、福、  
其、  
藤原

二十五日

昨、横濱の校友、三定、  
を寄す、川瀬一馬、  
の篆字、  
花法、  
生、  
此、  
三、  
い、  
い、

を齋らし来り示す、禁城好古河の伊豆  
喜代流すおゆの心不逸しと云す、の期又  
す、の苦、物を服つと云す、病身、今朝も  
り腹痛を感す、強飲を禁し七時を發  
す、而も流す、未書、永回、おゆの九十  
五點、正義を讀む、田中、穂枝、二日、死去、

二十六日

日

所、山田、は、他、よ、お、復、生、本、二、配、本、と、云、く、地  
岸、早、稲、田、の、稿、を、終、む、金、目、守、堂、と、云、余、の、地、草

穂原製

を、お、ゆ、現、代、地、草、全、集、才、主、卷、を、お、ゆ、と、云、す、  
る、銀、時、に、物、を、振、る、午、時、に、城、へ、入、り、不、嫁、三、日、  
ゆ、子、の、死、を、お、ゆ、と、来、り、石、田、と、云、く、城、内、を、お、ゆ、と、云、  
悔、の、題、を、お、ゆ、と、お、ゆ、と、云、く、七、日、を、お、ゆ、と、云、  
稿、を、時、を、終、す、

二十七日

海軍大臣の日記

時、朝、未、起、早、稲、田、の、稿、を、終、む、十、時、後、成、る、  
仍、来、二、三、日、の、午、後、田、中、穂、枝、の、二、日、生、お、式、に、臨、  
む、お、ゆ、の、地、草、を、讀、む、午、後、田、中、穂、枝、

二男のまふ文に臨む香典十日抄奉り、  
下谷廻りより定二回考と詩七回く、

二十八日

晴、志し仰、唯し、志、芸、出来、  
山陽、山陽、山陽、山陽、  
書信の是、運と、  
物も、  
是、  
二時を、

榎原製

書、  
後、  
と、

二十九日

雨、  
八、  
印、  
大、  
珍、

冊要案をくく未書

三十日

頃、細末地筆早稲田の稿と修む、梅深博六外  
より送る書意の題運を以て、銀行預金二萬圓  
引出す、石田と其の為の方違の書物と題運  
して送る日本橋迄散乗丸差に刊書を贈る  
と地、七月の睦合よりつき物不令負の現奉  
りともま件一而者終る、四月甲申の  
一冊と投す、内野五郎三遺子書と云

穂原製

考の皎亭題画集と客を以て、山田内心  
く未書、

三十一日

頃、内田皎亭の題画集詩と漢文且物す、其  
満生命を以て分館全載す、自に上製利集、坂上  
弘茂より江村と施す、坂上献吉山の山内  
ふれとほめを以て、宗家に伝及す、此吟紙の  
井上初二月の詩、詩と者物展望、此の山石本和  
印より余の題書、と出物らんことを未書



いふや五時山に修禪寺着、新井の  
投す、北流館北地と名ある、いふや余の  
菊尾に宿す、と何とし、北家、宿す、如  
めと也、近末大い、家尾を築築し、河津  
の産、二河を占領す、危、河津、文中  
溪流、危、流、以、樹木、禁、り、と、以、致、當  
一、一、谷、一、畢、つ、こ、の、人、と、行、す、十、畝、押  
高、も、の、不、留、と、一、回、に、領、つ、予、山、中、馬、を  
曳、く、の、田、と、得、り、輕、妙、の、業、下、致、を、素、衣  
余、等、の、家、の、階、下、に、這、海、あり、一、万、橋、を

積原製

築す、後、又、倚、り、元、松、の、木、を、這、上、り、さ、り、葛  
の、枝、に、絡、ん、で、垂、下、の、牝、十、畝、の、土、を、こ、こ、と、十  
畝、ス、ケ、ツ、チ、を、取、り、口、人、環、視、す、亦、一、息、也  
六、時、開、け、あ、り、二、三、の、時、未、つ、と、内、旋、す、北  
流、館、に、百、の、客、を、あ、り、と、る、佛、と、土、曜、の、い  
方、り、未、泊、名、を、る、耳、十、名、に、及、ぶ

二日

日

快晴、朝、の、後、修禪寺、を、裏、し、以、修、禪、寺  
(字、を)と、見る、佛、堂、の、法、を、説、く、為、り、時

を移り、余一行とあひて、執海、越き、海内  
家の法、安んず、遊んとす、急木、友の、東、帰  
せん、とす、の、提、推、の、自、來、自、動、車、を、施、す、  
将、と、る、電、車、せん、と、す、の、電、車、に、元、び、入、り、十  
一、時、じ、う、く、越、海、に、い、車、を、直、ら、る、所、の、家、を  
訪、れ、墓、の、注、を、い、ひ、漸、や、く、竣、成、を、告、げ  
る、法、安、と、先、ち、傍、を、迎、へ、て、墓、前、の、供、養、の  
を、と、り、せん、と、す、予、ハ、所、の、宅、に、墓、を、着、く、邊  
も、ろ、く、親、族、と、共、に、海、花、寺、に、身、を、あ、ら、す、其、の  
供、養、の、式、に、臨、み、初、の、を、以、墓、を、見、る、墓

稗原製

の、地、に、境、内、墓、前、の、立、降、を、あ、ら、す、予、の、母、老  
を、刺、し、つ、伊、勢、も、地、の、自、然、石、の、完、か、く、過  
遠、の、寸、念、に、似、て、何、と、も、い、ふ、人、も、な、し、思、あ  
り、墓、石、を、七、圍、ま、る、三、方、石、の、膳、屏、あ、り、墓  
前、に、早、大、を、祀、し、一、封、の、夜、終、り、法、推  
邊、域、を、い、上、上、と、い、ひ、理、め、ん、お、撲、灘、一、池、の  
内、日、あ、り、凡、光、を、と、作、也、供、養、の、終、り、所、の、方  
に、要、領、二、時、百、口、傳、り、上、け、の、法、安、と、を、い、ふ、本  
京、と、い、ね、ん、て、未、合、す、る、もの、也、十、數、人、讀  
任、畢、つ、て、一、回、墓、を、拜、す、余、二、三、子、の、處、に

庭し遊遊遊の運と題置。四時(一)  
同熱海ホテル、招へんを行く。予未亡人と  
舊と後志感懐の。一回庭前記念の披露  
をとり、立時女公子の列才席より列才、  
金子馬流坪の家三代の王来八事を謝し、田  
中半大総長は本熱海河長の演説を次  
に余も一場の故人追懐の後と試み、  
り向ふり出づ。七時四十分の汽車に搭  
一日帰京の途に親しく、今日日遊：臨し搭  
客は後へ控遊と極あり。九時五十分ゆ

穂原製

系家：ゆへり十一時寝に就く、大和の寺  
春庵泰宗宗雨：こし檀宮の垣輪摸造入形  
を定りせある。栂山糸一巾と物と笠  
来り。四時祀有段に献まると来書。

三日

町、四時分、多武田の終極壇迄去つてき昂杖を  
あかす。以次梅年史の坂本勲真：紀伊名  
刺を豊石、次城好伊良長代次と来書。  
午時日本佐太郎に中野城下坂に献まると





を校訂す、京久一印とて未書中央に論社  
とて新編河内全集廿四即ち未書宛本  
京久一印とてトルストイの一日一善下巻下ツ  
ルがキヲ全集未七巻と書物辰原純とて  
道河阿難と鬼子母とて高七集と、清波社  
よりと出金十用とて高七集とて

二日

晴朝未速に始の訂正の時可と力、右河  
隆義とて高七集とて此既出とて高七集とて  
種原製

高七集とて高七集とて此既出とて高七集とて  
山桑一印とて高七集とて高七集とて  
マキとて高七集とて高七集とて  
リ未書、京久一印とて高七集とて高七集とて  
丹兵衛原平とて高七集とて高七集とて  
高七集とて高七集とて高七集とて  
因辨海、安田生中、任次とて高七集とて  
高七集とて高七集とて高七集とて  
今とて高七集とて高七集とて高七集とて

板代博ふを道邊遊美の魁運を頼み  
五時紅葉坂の時合、臨去五十分旅中  
お七郎一未、氣賀林一と未書。

七日

雨、定本東日本社と相馬旅人の續良寛の批評  
を頼み、善本新講配本小久江東一印を頼  
利未訪、小久江と亡友山田真南の書信を臨  
と、善本の蘭味堅信を頼み、坂之献書  
酒、新河の旅舎藤田と塩麩一柄を頼

種原教

り来り、午時、元を伴めて新河の三福に酒飲  
物を後、隣良寛の批評文を頼み、板代  
六とお七と今と、小久江と余の相馬の書信  
を頼み。

八日

所、山田の足利、お馬旅人の續良寛  
の批評と定本東日本の社と、小久江、川原一  
馬と、善本、小久江と、一日、善本を後、午後  
二時、地蔵山田の房、道邊遊美の魁運

九日

晴 佐文飯の碗を熟す即山陽七絶お梅の乳を  
運生ゆふ乃ち出ると遊ふつ、いしの鉢櫃一  
隻照ると、安田昨花銀りの松政十一山陽の  
書牘と持来、鷹爪又ま、足る、今深ハ一  
西村高次と向より内子書熱高所井上精  
二果派、午後外一日一美を讀み且つ抄す、  
匡の東陰向より、松田義一と来、四時  
頃内子繼江三十九分の上、氷杖を、手南を  
赤鹿こ入り、赴下る、村瀬知彰も、

藤原製

十日

晴 村瀬知彰と柳井柳六、頼母木植去、  
即ち、平津金三、赤河、扇子、柳甚と  
己が、即ち十筋の扇に出し、い、熱飯  
飯為寺の為寺各と書す、健文社の、  
一松指、毫、立橋、演、御後、人、高、持、  
月、改、園、下  
二人庵の、午入と来、井上、松二、便、古、  
交付、中、法、左、文、(概、所)、の、赤、利、の、午、後、散、果、と、紙  
二物を、録、の、と、遊、ふ、予、の、技、行、と、ぬ、の、竹、実、書、来、と、  
力本、三、振、別、内、外、無、熱、田、後、向、外、



十三日

晴久は月夜に山を以て成一昔回七折と来也  
園下二人来早大出版部とて子夜終合の報を  
別々旅宿と兼て十一時散策上谷の公園  
に歸してゆ也。

十四日

晴久園下二人来久雜作と兼て今打降に投  
筒、市島徳厚の来書十二日茶法六の  
相つて、長谷小里為来とて来書并所托

榎原製

毛髪り来り、菊池和三より来り古語の二種  
井上祐二より返り、午後臥して旅宿を讀む  
津田孝規とて来也

十五日

晴朝六時十分此地を去り、園下二人来り  
丹吳協示来函、望原十二中とて来也且茶  
蕨を好み来り、熱海海壽寺門：樹の境内  
坊士墓所の標示を兼て、安江仙弘中坊の  
猶太の人心を讀み時を移す、島中雄心とて



十八日

昨、瓜、園下二人橋と修理す、菊池和之、山田河化  
来、坂中央、分、津、池、も、雨、宮、角、花、木、田、開、方、人  
来、り、道、邊、邊、星、出、版、の、協、議、を、ち、り、七、三、二  
平、病、田、大、子、ら、多、の、疑、を、否、し、新、世、の、回、顧、を  
著、心、す、洋、志、寺、皇、田、精、進、り、奉、地、の、途、中  
の、架、橋、入、り、き、す、可、附、書、を、し、て、来、り、山、千、氣  
は、北、十、十、及、内、子、御、大、の、嘘、ま、ん、傷、を、受、り、  
外科、医、を、招、き、治、療、を、加、山、坂、上、七、丁、多、う、注、射  
を、施、す、就、送、す、犬、を、巻、す、

棟原製

十九日

昨、大、日、本、計、画、分、此、分、功、能、の、七、分、五、三、十  
餘、の、才、の、段、金、を、入、り、金、成、技、術、を、扱、め、り、  
英、文、大、日、本、出、版、成、り、隨、筆、下、早、稲、田、の、箱  
を、修、理、の、多、く、時、を、費、す、中、津、原、一、と、未、知、  
洋、村、幸、一、ら、御、心、見、石、川、徳、流、り、来、坂、  
住、友、知、り、と、も、南、座、勘、定、決、算、并、通、知、書、刊、  
未、見、と、檢、り、と、預、金、現、額、五、千、四、百、九、十、五  
圓、四、十、五、三、八、此、利、子、二、十、四、圓、二、十、二、圓、也、岩  
山、外、科、病、院、未、定、山、二、堂、の、二、堂、の、り、傷、り、り、き、



淡、白石権のり、の雷、高し、小袋、二枚、物  
直毛、袋、郵、

二十日

晴、朝、未、迄、茶、早、稻、田、の、行、と、終、ち、石、川、徳、次、令  
才、次、山、湯、と、陽、迄、逆、藤、田、喜、守、り、し、米  
書、大、坂、毎、日、品、茶、豆、郡、の、向、は、是、ら、の、行、友、紀、行  
と、う、き、午、田、川、出、す、白、布、衣、と、お、儀、の、其、武、修、行  
と、頼、又、新、名、の、三、福、と、酒、飲、し、物、と、踏、り、し、田  
（三、何、田、未、之、入、ま、お、物、と、器、と、入、砥、石、踏、

榎原製

て、未、も、石、川、ま、あ、見、お、る、未、も、葉、子、持、太、い、午、後、漬  
書、の、時、を、移、す、三、つ、田、月、未、家、田、内、子、の、文  
付、丹、兵、宗、を、と、し、未、也、

二十一日

晴、今、朝、四、時、半、地、宿、を、去、り、和、田、島、を、未、と、入、り、し、  
生、魚、を、貯、り、未、も、萬、山、本、三、山、湯、の、鴨、の、是、逆  
と、清、山、且、つ、亦、次、石、味、の、板、の、大、幅、を、齧、し、  
未、も、池、兼、早、稻、田、の、行、を、修、ち、中、央、山、湯、就  
の、雨、宮、層、花、道、邊、邊、墨、茶、を、就、し、未、也、

午後郵便を奉り、四時あ田邸の書状を  
今書あり、内子多の暑熱うつき、夕  
四時既、雨降り出す、伊月若山二匠未  
診、志白原割屋店と、河魚の料理と寄  
七月日、大坂の本林あえ、と、  
雨夜朝来、池甚、早稲田の序を、  
雄森あ夫、所、  
来、今村、  
和日登

二十一日

穂原製

大田内子、文、午後、  
す、  
又、  
後

二十三日

日

雨、  
り、  
爪、  
あ、  
帰、

村隆之投書

二十四日

雨、五十二日、浄念寺、豊田、精山、架橋、豊田、  
十田、豊田、田村、廿二日、豊田、地蔵、早稲田、  
の穂と、修む、午後、浄念、浄念、浄念、浄念、  
浄念の心、而も、陳列、北洋、合資、の、為、  
上押、有、毛、も、も、も、も、今、合、後、  
浄念、と、其、錦、あ、に、飲、む、

穂原製

二十五日

晴、相、夫、地、蔵、早、稲、田、の、穂、を、修、め、最、終、の、子、  
稻、も、今、村、隆、と、郵、送、す、ま、浄、念、と、い、ふ、ま、も、押、  
置、の、子、稻、子、を、交、付、向、上、合、資、と、い、ふ、(二十五日、午、  
の、ま、じ、り、ま、す、) 北、洋、高、島、毛、也、七、托、負、領、縁、彦、次、  
郎、も、次、午、後、穀、米、糧、有、垣、粉、換、一、個、を、得、也、  
也、

二十六日

晴、山、田、清、色、島、山、寺、二十、年、の、基、北、寺、向

大田田中長之介が長谷川氏の撲  
状利之、示存金三印の爲め金押其毛の物一運  
ニ是より複製令本二冊配本以上所存すま  
注射を施す、難症を兼す、午後九じりも  
あとならば換送の法、詮寺、運漢も嬉心  
以て、廻り、自効車も、鋭く、切込、就金  
中、突如車の運動も止り、考め、全身  
に、壓迫を感し、一時天井地、怒る、漸やく  
り、七、全身、殊に、背、部、に、疼痛を感し、毛  
部、に、打撲傷あり、多分、抱、心、を、来、す、

榎原製

酒漢隊の木が、箱、が、箱、へ、入、り、眼鏡、は  
車、震、動、の、際、冠、へ、目、を、離、れ、投、げ、お、し  
て、之、を、車、亭、者、に、渡、す、眼鏡、も、破、損  
を、免、れ、ん、酒、漢、隊、も、無、事、に、帰、り、し、り、お、た、り  
破、壊、し、り、別、に、箱、が、他、の、よ、り、箱、へ、入、り、し、り  
先、に、お、た、り、し、り、室、氣、の、壓、迫、の、為、め、と、云  
ふ、の、外、に、し、り、切、り、後、伊、日、醫、師、の、診、を  
受、け、り、格、別、に、お、た、り、し、り、と、云、ふ、事、者、は、白  
粉、車、も、破、壊、し、り、し、り、北、久、縣、を、り、し、り、し、り  
し、り、送、送、の、ブ、レ、ー、ク、を、お、た、り、し、り、危、険、を、り、し、り



午後若山、伊月二人、政司の裏の湯に参り、  
余の疾部の診察をもと一時の振衝を以て  
向ふと云ふを以て、余は去日原金銀、  
寄て来り、

二十九日

今朝四時二回、地震あり、初来、  
山は他、山は山、向上、今、  
を報へ、於、  
即ち、伊月、  
朝日の、

一三條五條のお大橋、  
二高、  
橋、  
昔、  
の、

三十日

日

お月、  
やく、  
丸七、







予が十数年前此紙を頼りに抄けり幸山送  
り米尾の書信を書き与謝礼に命宗礼  
の書丹の計受を得たりことを云とす此書  
冊或は先か余に譲渡を請ふに任七歳す  
至あるに予も山陽吉岡十四巻一卷後定を  
求むるに早大出陣研究会との和田明雄が  
一人来りて法出陣するを志見を徴し  
てある福留甲子三の為に余が此書に五子  
因縁授け福留に題す龜山書三に據り  
十月湯を丹兵見身内不に甘未酒日本國

棟原製

其故を以て理を改述の結果を叙す  
武田上巳関大らと未志宿後河瀬一馬  
の将公振高に記すの改述を轉く

五日

頃中央公命の西宮廟を造り外方各あり  
命の使に山陽吉岡書信あり山田清心東法  
章來り早大出陣部をも物を贈りて  
在河川関下らと題筆山陽泰死一夕  
法を郵送す今并去平子の命宗禮の

畫冊、竹まき、波濤一爨を、其の山、六次者、三、  
秀魚を、歸り、来り、五時を、紅葉、鏡、列り、曉  
今、臨む、松、示、高、四、井、上、増、田、四、月、四、中  
并、金、出、席、五、苗、金、一、丁、三、三、三、三、三、三、  
買、目、の、早、速、海、( )、新、山、候、存、く、花、を  
野、を、萩、を、笑、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、  
三、三、三、三、

六日

昨、午、後、一、時、を、高、原、川、崎、雅、合、行、室、渡、り、

榎原製

ま、の、日、也、渡、り、の、夜、と、徹、し、て、四、日、三、午、に  
判、り、止、ち、秘、室、也、谷、村、一、太、中、と、と、東、都、久、来  
ま、の、き、未、尚、森、脚、美、村、イ、カ、切、平、中、登、美、夫  
夫、由、存、久、寛、日、以、迄、許、白、西、村、之、別、又、五、  
う、内、あ、く、と、種、と、照、り、あ、り、午、後、四、時、か、  
イ、レ、二、時、り、飛、り、抜、去、来、桃、関、鏡、志、き、り、二、  
夕、三、時、へ、殺、氣、漲、り、夜、入、り、燈、火、を、滅、ん  
所、す、而、や、才、す、二、時、に、曉、危、め、を、蛇、之、甘、  
レ、三、の、存、り、を、つ、く、五、十、名、を、渡、り、習、卷、如、法、  
其、の、各、想、ふ、へ、し、

七日

日

海空概観今朝高つてく敵城をうら屋旦を過  
く七時付迄に終り、余も幸由宿付彦法今日  
筆池をぬりて法日本風味到来閑と来  
し句集をよみ炎暑の句を採録す、亀山来

花六刺鵲

三三三 好井石舟の遺印を賞

好井石

くし受く 北人田をこ蓬舟次

遺印

連環

待人也 河瀬三平 承以有と

山舟

鈕銅印 法山十一時に出海船を領

去

榛原製

八日

河瀬三平の為め、小裏二枚押毫紙  
好彦次印来る池上秀敏の以元山陽  
秘事の巻の流石と化り且題一匣、午後  
押毫十枚紙二時を費し、甚疾に  
城くすに、四時、即ち後集を今も臨  
車善吟中も、法山少時を法して吟く、如  
洋中懸二帖志壯心成

九日

時朝未指是編本七枚或云午後從人  
の教葉日本格に物を指す物に武田  
豊四郎の圖す。

十日

時朝金三石目出す内二石目印に書き武  
田豊四郎に押是十枚紙文付押是二  
枚冊是書本より抜部一枚裏面印目迄  
印に書き二枚折席紙亦印金三石目印  
難保と書す武田豊四郎の二十石の切書

穂原製

利未以白雲春女其幼午後從人：指  
物を指す物に書き武田豊四郎の  
印に書き二枚折席紙亦印金三石目  
難保と書す武田豊四郎の二十石の切  
書

十日以後別冊に記す

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

新  
京  
林

標  
原  
製



